

国立国際美術館 収集の概要（令和4年度）

国立国際美術館では、日本の美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするために必要な美術に関する作品・その他資料のうち、1945年以降を重点的に収集している。なかでもとりわけ、同時代性の高い先端的な美術を中心に調査・研究を行い、総合的な影響関係を踏まえつつ、ジェンダーバランスの是正や、非欧米地域の動向、国内の地域バランスにも配慮しながら、今後の美術史に寄与する作品を体系的に収集している。

令和4年度は、村上隆《727 FATMAN LITTLE BOY》（2017年）他37点の作品を購入した。世界的に評価の高い村上隆は、日本の1980年代～90年代以降の芸術傾向を知る上で不可欠な存在だと言えるが、同作家の作品は当館にとって初収蔵となり、代表的絵画シリーズの一点がコレクションに加わったことは意義深い。またこの他洋画、彫刻、写真、映像など多岐にわたるジャンルの作品を購入し、女性作家の作品も数多く収集することで、コレクションのジェンダーバランスは是正に配慮することができた（田島美加、石川真生、西山美なコ、プブ・ド・ラ・マドレーヌほか）。同時に国内作家のみならず、タイ（アリン・ルンジャン）、フィリピン／イギリス（マリア・ファアラ）、ドイツ（アストリッド・クライン）など幅広い地域の作家の作品を収集することで国際的な現代美術の収集の継続に努めた。

国立国際美術館 美術作品購入一覧（令和4年度）

＝特別予算購入		
1	種別	洋画
	作者名	ミケル・バルセロ（1957-）
	作品名	下は熱い
	制作年	2018年制作
	材質・形状	ミクストメディア、カンバス
	寸法	234.5×285.0×9.0 cm
	解説	本作は、2022年当館で開催され国内各地を巡回したバルセロの日本初個展出品作品。タイトルから連想されるように、近年の地球温暖化や異常気象を暗示している。自身が生まれ育ったマヨルカ島や地中海の自然、生き物を愛し、人間もまたその一部と考えるバルセロにとって、環境問題は切迫したテーマであり、その危機を訴えた作品と解釈できる。なお、自身の語るところによれば、本タイトルは、彼が好んで聴いていた1990年代のコートジボワールの流行歌の一節、“Si tu vois poisson sortir de l’eau, c’est qu’en bas c’est chaud”（水面から魚が出てくるのが見えたら下は熱い）から引用されたものである。
	取得額	－
	展示予定	2024年度開催のコレクション展で展示予定
2	種別	洋画
	作者名	村上 隆（1962-）
	作品名	727 FATMAN LITTLE BOY
	制作年	2017年制作
	材質・形状	アクリル、アルミフレームにマウントされたカンバス
	寸法	300.0×450.0 cm
	解説	村上隆は、日本の1980～90年代以降の芸術傾向を知るうえで不可欠な存在であるだけでなく、世界的に高い評価を得る作家である。本作は1996年から始められた作家の代表的絵画シリーズ〈727〉のうちの一点。『信貴山縁起絵巻 延喜加持巻』における雲の図像を援用しつつ、そこに村上のキャラクター「DOB君」を組み合わせた本シリーズの名称は、化粧品会社の広告看板に由来する。この数字を、アメリカの旅客機（ボーイング727）と誤解したことからシリーズが生まれた。「アメリカに対するコンプレックス」がこのシリーズの主題のひとつであり、タイトルに用いられた「FAT MAN」「LITTLE BOY」という言葉、つまり長崎および広島に投下された原子爆弾の名称がそれを示唆する
	取得額	－
	展示予定	2023年度コレクション展「コレクション1 80/90/00/10」（2023年6月24日～9月10日）で展示予定
3	種別	洋画
	作者名	マリア・ファアラ（1988 - ）
	作品名	テラスのある部屋
	制作年	2021年制作
	材質・形状	油彩、麻
	寸法	179.8×130.0 cm
	解説	マリア・ファアラは1988年フィリピンに生まれ、現在はロンドンを拠点に国際的に活動している。イギリス人の父親、フィリピン人の母親のもと、幼少時から15歳までを下関で育ったファアラの作品は、幼少期の彼女を取り巻くフィリピン人女性コミュニティ、そしてマンガやファッション、食べ物などの日本文化からの影響が強く見え隠れする。日常的な光景の中に、女性たちの離別、犠牲、新たな国での苦難、喜びなどが潜在的なものとして鮮やかな色の組み合わせの中に描かれる。
	取得額	－
	展示予定	2023年度特別展「ホーム・スイート・ホーム」（2023年6月24日～9月10日）で展示予定

4		種別	洋画
		作者名	今井俊介（1978 - ）
		作品名	untitled
		制作年	2022年制作
		材質・形状	アクリル、カンバス
		寸法	210.5×264.5 cm
		解説	作者は1978年福井県生まれ。具象的なイメージを出発点に、一見したところ抽象的な色面で構成された絵画を手がけている。鮮やかな色彩のストライプや水玉で構成された画面が特徴的で、色や形、構図、二次元的といった絵画の本質的な問題に正面から取り組み続けている。制作に際しては、まずパソコン上でストライプなどを組み合わせてイメージを作成し出力。その紙を折るなどして立体性を持たせる。これをデジタル撮影して再度パソコンに取り込み、さらにイメージを加工。この最終的なイメージデータを、カンバスにプロジェクターで投影して鉛筆でなぞり、アクリル絵具で丁寧に描いていく。
		取得額	-
		展示予定	2024年度開催のコレクション展で展示予定
5		種別	洋画
		作者名	今井俊介（1978 - ）
		作品名	untitled
		制作年	2022年制作
		材質・形状	アクリル、カンバス
		寸法	210.5 × 550.6 cm
		解説	作者は1978年福井県生まれ。具象的なイメージを出発点に、一見したところ抽象的な色面で構成された絵画を手がけている。鮮やかな色彩のストライプや水玉で構成された画面が特徴的で、色や形、構図、二次元的といった絵画の本質的な問題に正面から取り組み続けている。制作に際しては、まずパソコン上でストライプなどを組み合わせてイメージを作成し出力。その紙を折るなどして立体性を持たせる。これをデジタル撮影して再度パソコンに取り込み、さらにイメージを加工。この最終的なイメージデータを、カンバスにプロジェクターで投影して鉛筆でなぞり、アクリル絵具で丁寧に描いていく。
		取得額	-
		展示予定	2024年度開催のコレクション展で展示予定
6		種別	洋画
		作者名	田島美加（1975-）
		作品名	アールダムーブルモン（クライン・キュラソー）
		制作年	2022年制作
		材質・形状	エナメルスプレー、蓄光塗料、熱成形PETG
		寸法	185.5×136.5×6.1 cm
		解説	ニューヨークを拠点に国際的に活躍する田島の代表的な作品であるアクリル板に着色した「Art d' Ameublement」（家具のアート）のシリーズは、豊かな色彩の画面が鑑賞者に刺激をよびさます構成である。彼女がある地名から想像するイメージを抽象的に表現しているが、本作はベネズエラ沖にあるクライン・キュラソー島がモチーフである。アクリル製支持体の裏面に絵具を吹き付け、特殊コーティングされた表面から見ることで、鏡面的な役割を持つ画面に鑑賞者や周囲の環境も映り込むことで、確かな実体とつかみどころのない存在が複層的に表現される。
		取得額	-
		展示予定	2025年度特別展に展示予定
7		種別	洋画
		作者名	西山美なコ（1965-）
		作品名	Looking at you
		制作年	1997年制作
		材質・形状	アクリル、パネル、額
		寸法	各95.5×75.5 cm
		解説	西山は1980年代末より制作活動を本格化させ、とりわけ日本に住む、当時の少女たちの憧れをモチーフに作品を手がけてきた。そこには常に、性差をめぐる醒めた、批判的な視線が介在している。華奢な身体で、カラフルな髪型の少女たち。「れいか」や「キャンディ」等々、個々に名前をもつ彼女らは、鑑賞者を取り囲み、その煌めく大きな瞳で見つめる。タイトルが示すように、この作品において問題となるは、見る／見られるという主客関係の転倒、逆転にほかならない。鑑賞者が男性であればなおさら、見ることに伴う欲望の挫折が浮き彫りになるはずである。
		取得額	-
		展示予定	2023年度コレクション展「コレクション 1 80/90/00/10」（2023年6月24日～9月10日）で展示予定

8 ★	種 別 : 洋画 作 者 名 : 藤原康博 (1968-) 作 品 名 : 迷宮～記憶の稜線を歩く～ 制 作 年 : 2021年制作 材 質・形 状 : 油彩、カンバス 寸 法 : 194.0×259.3 cm 解 説 : 作者は、伊賀の自然豊かな地に暮らしながら、身近な山野や日常的な光景を、絵画や立体作品など多彩な表現形式によって、現実を異化したような独特な世界観へと変換する現代美術作家である。 本作品の青一色で描かれた画面は、写実的でありながら幻想的な雰囲気を醸し出しており、現代絵画の多様性を示す好例となっている。 取 得 額 : - 展 示 予 定 : 2024年度開催のコレクション展で展示予定
9 ★	種 別 : 洋画 作 者 名 : 藤原康博 (1968-) 作 品 名 : 迷宮～記憶の稜線を歩く～ 制 作 年 : 2021年制作 材 質・形 状 : 油彩、カンバス 寸 法 : 194.0×259.3 cm 解 説 : 作者は、伊賀の自然豊かな地に暮らしながら、身近な山野や日常的な光景を、絵画や立体作品など多彩な表現形式によって、現実を異化したような独特な世界観へと変換する現代美術作家である。 本作品の青一色で描かれた画面は、写実的でありながら幻想的な雰囲気を醸し出しており、現代絵画の多様性を示す好例となっている。 取 得 額 : - 展 示 予 定 : 2024年度開催のコレクション展で展示予定
10 ★	種 別 : 洋画 作 者 名 : マリア・ファーラ (1988-) 作 品 名 : 私がつくるケーキ 制 作 年 : 2022年制作 材 質・形 状 : パステル、紙 寸 法 : 99.8×70.0 cm 解 説 : マリア・ファーラは1988年フィリピンに生まれ、現在はロンドンを拠点に国際的に活動している。イギリス人の父親、フィリピン人の母親のもと、幼少時から15歳までを下関で育ったファーラの作品は、幼少期の彼女を取り巻くフィリピン人女性コミュニティ、そしてマンガやファッション、食べ物などの日本文化からの影響が強く見え隠れする。日常的な光景の中に、女性たち 取 得 額 : - 展 示 予 定 : 2023年度特別展「ホーム・スイート・ホーム」(2023年6月24日～9月10日)で展示予定
11 ★	種 別 : 彫刻 作 者 名 : 田島美加 (1975-) 作 品 名 : アニマ 11 制 作 年 : 2022年制作 材 質・形 状 : 黒ガラス、ブロンズ製ジェットノズル 寸 法 : 37.5×38.7×33.0 cm 解 説 : ニューヨークを拠点に国際的に活躍する田島の「アニマ」シリーズは不定形のガラスの立体にブロンズ製のジャグジー用ジェットノズルが付された作品である。アニマとはラテン語で呼吸、風、生命、魂という意味を持つが、体内からのエネルギー放出、他者とのコミュニケーションが表現されている。 取 得 額 : - 展 示 予 定 : 2025年度特別展に展示予定

12	★	種別：彫刻 作者名：田島美加（1975-） 作品名：アニマ 51 制作年：2022年制作 材質・形状：蓄光塗料、ガラス、ブロンズ製ジェットノズル 寸法：30.5×48.3×38.0 cm 解説：ニューヨークを拠点に国際的に活躍する田島の「アニマ」シリーズは不定形のガラスの立体にブロンズ製のジャグジー用ジェットノズルが付された作品である。アニマとはラテン語で呼吸、風、生命、魂という意味を持つが、体内からのエネルギー放出、他者とのコミュニケーションが表現されている。 取得額：- 展示予定：2025年度特別展に展示予定
13	★	種別：彫刻 作者名：ブブ・ド・ラ・マドレーヌ（1961-） 作品名：人魚の領土ー旗と内臓 制作年：2022年制作 材質・形状：金網、針金、綿ガーゼ、古布、綿わた、ポリエステルわた、タコ糸 寸法：サイズ可変 解説：ブブ・ド・ラ・マドレーヌは1961年大阪市生まれ。1980年代から90年代には、ダムタイプの主要メンバーとして世界各国でパフォーマンスを行った。本作は、ダムタイプの代表作《S/N》（1995）のラストシーンで作家自身が行った、万国旗を用いたパフォーマンスを連想させる。人魚は死者の世界である海と、陸の狭間で生きる存在として、作家にとつての重要なモチーフとして扱われてきた。本作では、皮膚の病気をヒントに「人魚の脱皮」を着想し、皮膚だけでなくその内側にある内臓まで脱皮することで、内側から新しく生まれ変わるというイメージを作品化している。色とりどりの旗は人魚の鱗のイメージであると並に語りや短編の象徴とも読み取れる 取得額：- 展示予定：2023年度コレクション展「コレクション2」（2023年2月6日～5月6日）で展示予定
14	★	種別：映像 作者名：アリン・ルンジャー（1975-） 作品名：246247596248914102516 ... そして誰もいなくなった 制作年：2017年制作 材質・形状：シングルチャンネル・ビデオ、（HD、カラー、サウンド） 寸法：46分00秒 解説：タイを代表する現代美術作家として活躍するアリン・ルンジャーは、1975年バンコク生まれ、同地を拠点に活動している。歴史性のある資料を分析し、大小さまざまな歴史的、政治的な物語を再構築することで知られており、その実践ビデオやサイト・スペシフィックなインスタレーションに呈示される。本作はカッセル（ドイツ）で行われたドクメンタ14（2017）のコミッションとして制作、出品された。ヒトラーの最後の面会者がタイ人であり、この人物がタイの民主化革命に関わったメンバーの1人であったという歴史的事実、また作家の父親がかつてドイツの企業で働いた経験を持つという私的側面を重ね合わせて映像化された。 取得額：- 展示予定：2024年度開催のコレクション展で展示予定
15		種別：洋画 作者名：今井祝雄（1946-） 作品名：作品-円A 制作年：1964/2012年制作 材質・形状：アクリル、布、金型、釘、パネル 寸法：Φ160.0×9.0 cm 解説：今井は兵庫・芦屋で結成し、大阪・中之島を活動拠点としていた具体美術協会（具体）メンバーの一人。作者が本作品を手がけたのは1964年、具体美術協会に入る前のこと。具体入会后に制作された不正多角形の白い作品群、その凸部に孔を穿つという今井の方法の原点を知る上で、本作品は重要な位置価値を有している。 取得額：- 展示予定：2024年度開催のコレクション展で展示予定

16	種別	洋画
	作者名	今井祝雄（1946-）
	作品名	作品-円D
	制作年	1964/2012年制作
	材質・形状	アクリル、布、金型、釘、パネル
	寸法	Φ160.0×9.0 cm
	解説	今井は兵庫・芦屋で結成し、大阪・中之島を活動拠点としていた具体美術協会（具体）メンバーの一人。作者が本作品を手がけたのは1964年、具体美術協会に入る前のこと。具体入会後に制作された不正多角形の白い作品群、その凸部に孔を穿つという今井の方法の原点を知る上で、本作品は重要な位置価値を有している。
	取得額	-
	展示予定	2024年度開催のコレクション展で展示予定
17	種別	洋画
	作者名	柏原えつとむ（1941-）
	作品名	カーテンを認識するためのカーテン
	制作年	1968年制作
	材質・形状	染料、布、カーテンレール
	寸法	177.0×175.0 cm
	解説	柏原えつとむは、作者と作品が切り結ぶ関係に注意を払い、それを成立させる芸術の基盤を問い直し続けてきた。60年代後半より異色作を発表し、70年代には概念芸術と評されながら、そうした批評と一定の距離を保つ姿勢を堅持している。 柏原の仕事に通底するテーマのひとつに「なぜそのように見えるのか」という根源的な問いがある。いわば認識をめぐるこの問題系に、柏原はさまざまな方向からアプローチを試みてきたが、本作はその最初期の代表作である。裾に装飾を施したクラシックなカーテンの上に、赤と青の鮮やかな色彩でカーテンと窓の図像を重ね、二次元と三次元の間をゆさぶりつつ、イメージとその認識について問いかけている。
	取得額	-
	展示予定	2023年度コレクション展「コレクション2」（2024年2月6日～5月6日）で展示予定
18	種別	洋画
	作者名	加藤泉（1969-）
	作品名	無題
	制作年	2019年制作
	材質・形状	パステル、アクリル、綿、麻、革、刺繍、紐、アルミ、鎖、リトグラフ、石
	寸法	サイズ可変（布作品：600.0 × 207.0 cm）
	解説	加藤泉は1990年代半ばから油彩画を発表し始め、2000年代からは彩色した木彫作品も手掛ける。胎児のようなモチーフが特徴的である。近年は石やソフトビニール素材を用いた立体作品、リトグラフの制作などにも積極的に取り組んでおり、屋外などパブリックな場所への作品設置も増えるなど、その仕事は大きな展開を見せている。 本作は2019年に原美術館で開催された大規模な個展で発表された作品。天井から吊り下げて展示するもので、石、鎖、布と布を繋ぐステッチなど、加藤が近年用いる要素が盛り込まれた大作である。
	取得額	-
	展示予定	2023年度コレクション展「コレクション2」（2024年2月6日～5月6日）で展示予定
19	種別	洋画
	作者名	福島秀子（1927-1997）
	作品名	Work 10
	制作年	1963年制作
	材質・形状	油彩、カンバス
	寸法	145.3×97.6 cm
	解説	福島秀子は、1950年代に活動した総合芸術集団「実験工房」唯一の女性メンバー。本作品は、実験工房が、その主要な活動を終えた1957年以後に制作された作品。50年代半ばからは、本作にも見られる、型押しした円を特徴とする独自の画風を確立する。来日中の美術評論家ミシェル・タビエに見いだされるなど、アンフォルメルの中心的作家の一人として評価された。
	取得額	9,460,000円
	展示予定	2023年度コレクション展「コレクション2」（2024年2月6日～5月6日）で展示予定

20	種別	：	写真
	作者名	：	アストリッド・クライン（1951-）
	作品名	：	無題（私はしゃべらない、、、）
	制作年	：	1979年制作
	材質・形状	：	写真
	寸法	：	166.0×126.0 cm
	解説	：	アストリッド・クラインは1951年ドイツ・ケルンに生まれ、現在も同地を拠点に活動している。フランスのヌーヴェルヴァーグやフォト・コミック、イタリアのネオリアリズム映画に大きな影響を受けたクラインは、主に政治的な問題やメディアや映画における女性の表現について作品を制作している。また、しばしばテキストを中心的かつ形式的な要素として使用し、コラージュの中で彼女自身によるテキストと哲学者、科学者、作家のテキストを組み合わせ、変化させている。ブリジット・バルドーの写真による本作は、その特徴が示された代表作として知られている。
	取得額	：	-
展示予定			2023年度コレクション展「コレクション2」（2024年2月6日～5月6日）で展示予定
他17点／計37点 購入総額：749,652,044円			